様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４月２８日現在

機関番号：１６４０１
研究種目： 基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20401012
研究課題名（和文） 熱帯里山ガバナンスをめぐるステークホルダー間にみる利害関係とその背景
研究課題名（英文） Relationships among stakeholders for Tropical Satoyama governance

研究代表者
市川 昌広（ICHIKAWA MASAHIRO）
高知大学・教育研究部自然科学系・教授
研究者番号：80390706

研究分野：東南アジア地域研究
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：熱帯里山、先住民、熱帯雨林、生業、イバン人、ダヤック、日本の里山、プランテーション

１．研究計画の概要

本研究では、熱帯雨林保全の重要な鍵として、森やその周辺に住む先住民が長い時間をかけて暮らしのために創りあげてきた「熱帯里山」に注目する。熱帯里山の管理をめぐっては、先住民、政府、開発企業、NGO などさまざまなステークホルダーがみられる。インドネシアおよびマレーシアの４つの調査サイトにおいて、ステークホルダー間の利害関係について比較研究をおこない、熱帯里山のガバナンスに必要な条件について導き出すことを目指している。

２．研究の進捗状況

(1)熱帯里山概念の整理：里山とは元来、日本における土地利用の概念である。そこで、初年度には、熱帯における類似した概念の有無を調べ、「熱帯里山」をどのような意味合いで使用するのかを検討した。その結果、「熱帯里山」概念を明確にするためには、日本の里山との比較検討が欠かせないことから、日本も調査対象に加えることとした。

(2)インドネシアでは、東カリマンタン州および中スラウェシ州、マレーシアではサラワク州およびヌグリスンビラン州に調査地を設定し、地域住民と「里山」の利用の関係を調査した。その結果、熱帯雨林気候下の森林で、先住民が暮らす環境下であっても、政策、地域住民、森林開発の状況によって「里山」管理の状況はかなり異なることが分かった。東カリマンタンでは、地方分権化を背景にプランテーション開発が大きな影響を及ぼしている。中部スラウェシでは、宗教や保護区からの移動と稲作儀礼との興味深い関係がみられる。サラワクでは、都市の発達により村落からの人口流出が進み、人口減少・高齢化の兆しがみられる。ヌグリスンビランでは、外の人々を取り込んだエコトゥーリズムを森林管理に取り込んでいた。

(3)3 年目の昨年度は、学会発表や成果公表の機会を増やし、議論を進めることにより、熱帯里山概念の明確化を目指し、最終年に向け統合化された成果の発信の準備を進めた。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

当初設定した４つの調査サイトでの現地調査は順調に進行していることに加え、比較検討のために日本の里山研究を加えたことにより、より充実した熱帯里山に関する考察を加えることができる。最終年度に向けてインパクトのある統合化された成果公表を計画している。

４．今後の研究の推進方策

23 年度が最終年度であるため、最終的な調査に加え、まとめのための研究会および成果発表に重点をおく。英文学会誌で特集を組むことにより、国際的・学術的によりインパクトのある成果を発信する。

５． 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１４件）

①市川昌広、マレーシア・サラワク州の焼畑栽培にみられる除草剤利用とその背景、農耕の技術と文化 27、21-41、2010、査読有
②河合真之・井上真、大規模アブラヤシ農園開発に代わる「緩やかな産業化」の可能性：

東カリマンタン州マハカム川中上流域を事例として、林業経済（６３）７、1-17、2010、査読有
③島上宗子、学びあいのメディアとしての映像記録：中スラウェシの山村トンプにおける実践から、地域研究 13、138-166、2010、査読無
④生方史数、制度の理念的設計・自生的進化とその整合化：タイの共有林管理の事例から、社会と倫理 24、31-47、2010、査読無
⑤ Masahiro Ichikawa 、 Changes and diversity in rules of natural-resource tenure by the Iban of Sarawak, East Malaysia: An evaluation from the viewpoint of biodiversity conservation、*Asian and African Area Studies*、１－２１、2008 査読有

〔学会発表〕（計 22 件）
① Inoue Makoto 、 Prototype Design Guidelines for 'Collaborative Governance' of Natural Resource 、 13th Biennial Conference of the International Association for the Study of the Commons、2011.1.12、Hyderabad, India
②Ichikawa Masahiro、Depopulation and aging problem in rural areas in Japan and Malaysia 、 The third international conference on forest related traditional knowledge and culture in Asia、2010.12.15、Shiinoki Cultural Complex 、 Kanazawa 、 Japan
③Ubukata, F.、The Decentralization or Centralization? The CBNRM Policy and Its Local Impacts in Thailand、The 2010 International Conference on Community Forestry、2010.12.8、Taipei
④Ichikawa, M.、Changes of land and forest uses by indigenous people of Sarawak、Sarawak Biological Resources Forum 2010、2010.3.30、Kuching, Malaysia
⑤Masahiro Ichikawa、A comparison of *Satoyama* (anthropogenic forests-based landscape) between Borneo and Japan、Borneo Research Council 9th Biennial International Conference、2008.7.29、Kota Kinabaru, Sabah, Malaysia

〔図書〕（計 12 件）
①小泉都・市川昌広、地球環境学事典、2010、367-368
②三俣学・菅豊・井上真編、ローカル・コモンズの可能性－自治と環境の新たな関係、ミネルヴァ書房、2010、270
③市川昌広・生方史数・内藤大輔編、『熱帯アジアの人々と森林管理制度――現場からのガバナンス論』人文書院、2010、278
④島上宗子、東南アジアにおける自治体ガバナンスの比較研究、日本貿易振興機構アジア経済研究所、2010、110-127
⑤島上宗子、フィールドワークからの国際協力、昭和堂、2009、202-203

〔その他〕
作成したウェッブページ：
http://www.geocities.jp/nuta_otoyo_kochi/index.html